

第8回区政改革懇談会・議事要旨

日時 平成20年10月20日(月)、19:00~21:00

会場 サンパール荒川 高砂・羽衣

議事要旨

開会

1. 座長あいさつ

○ 区出席者・自己紹介

○ 座長

- ・ 前回、各グループで児童見守りが話題に上ったので、教育委員会からも出席頂いた。質問や意見など積極的に呼び掛けてほしい。
- ・ 次回の前半に、防犯に関するグループ討議内容を発表するので、発表者を本日決めてほしい。

○ 事務局

(児童見守り啓発用のぼり旗、手旗、腕章などの掲示と説明を行った。)

2. 地域別グループ討議

- ・ 【グループ討議の結果まとめ】別紙参照

3. 次回の懇談会について

○ 座長

- ・ 次回は、前半に防犯に関する発表、後半に福祉に関するグループ討議を行う。
- ・ また、意見用紙に言い足りなかった意見など自由に記入いただき、活用してほしい。

次回日程：平成20年11月12日(水) 19:00~21:00

以上

第8回 区政改革懇談会 グループ討議の結果まとめ

平成20年10月20日(月)午後7時～9時 @サンパール荒川 高砂・羽衣

<南千住グループ>

1. 区のパトロール施策の拡充

【パトロールカーの巡回】

- ・ パトロールカーの巡回は、大きい通りのみで細い路地等には入って来ない、地域をきめ細かに巡回していないという指摘がある。巡回の実態はどうなっているか。

<区からの説明>

- ・ 安全安心パトロールカーは三台あり、業務委託事業として365日、午後1時から翌朝5時まで区内を巡回している。昼間は防犯のアナウンスも行っている。
- ・ 必ずしも大通りだけでなく地域全体を巡回するようにしており、状況に応じて、公園などでは車を停めて巡回するようにしている。
- ・ 警察や区民の方から巡回の要望がある場所は、重点的に巡回している。

【地域に密着したパトロールカーの巡回】

- ・ パトロールカーの巡回の同乗者に、定年退職した人がボランティア活動として気軽に参加出来るようにするとよい。ただし、区の防犯講座等を受講するなどの仕組みをつくる。
- ・ 巡回場所は、身近に起きた犯罪データなどを町会長に集約し、その情報を基に、町会長とパトロールする人とが相談するようにする。

【パトロールに誰でも参加できる仕組みづくり】

- ・ 町会や団体等に加入していなくても、一人の区民でも気軽にパトロールの腕章などを着けて巡回できるなど、パトロールが出来る人の垣根を低くするようにする。その際、区の防犯講座等を受講した人に限定するといった仕組みをつくる。
- ・ パトロールのデータの蓄積を図ることが大事である。巡回した結果から、防犯のための地域情報を蓄積するようにする。

2. 町会と地域との連携

【町会加入の働きかけ】

- ・ 町会において、防犯活動はそれなりに行われている。町会に加入して多くの人が防犯活動にかかわることが大事である。区が、町会加入について、賃貸マンションも含めた全てのマンションに働き掛け、全体として防犯活動を高めることが必要である。
- ・ 区報でも町会加入の呼び掛けをするとよい。
- ・ 一人で町会に加入すると、その人に色々な町会の役割や仕事が廻ってきて負担が大きくなるので、地域毎やマンション毎にまとまって加入するのがよい。

【町会活動の魅力づくり】

- ・ 町会加入の呼び掛けも大事だが、そもそも町会の活動が魅力あるものとなっているのか、ということも検討されるべき課題である。

【町会の役割と権能】

- ・ 今の町会活動を見ていると、頑張る町会長が一人いて、他の会員は余り頑張っていないことが多い。町会の機能や権能について、見直しが必要である。例えば、町会を地

域自治区として位置づけ、権限や権能を持たせる方向で検討することも考えられる。

3. 行政施策の情報発信

【区のホームページについて】

- ・ 区のホームページのトップページは、もう少し分かりやすくすべきである。トップページの項目を増やす等の工夫が必要である。防犯活動についての取組み状況を知ろうとしても、今のホームページでは分かりにくい。

【防犯情報の集約化と効果的な発信】

- ・ 防犯活動の主たる団体は、警察、町会から推薦された人等から構成される防犯協会や区役所である。防犯についての情報は、これらの各々の団体から発信されているが、区役所がこれらの情報を一元化し発信した方が区民には分かりやすい。
- ・ これからは税収減が見込まれ、提供しうる行政サービスの量は減る可能性があることから、情報も集約的に効果的に発信するのが良い。

【まちづくりに関する“第二”区報の発行】

- ・ 区報は色々な内容が盛り込まれているが、防犯や地域の行事やまちづくりに関するソフトな事柄だけを広報するような“第二”区報の発行が望まれる。
- ・ “第二”区報の編集は、区民も参加して編集する。
- ・ 今の区報は、行政からの単発のお知らせが記載されているに過ぎず、読みものとして面白くない。例えば子どもがレポーターになって区民にインタビューし、その内容を記事にすると面白いものになる。また、一回の広報誌では記載し切れないものを連載として記事にするなど工夫が必要である。“第二”区報でそうした取組ができるとよい。

4. 防犯のための自主的ルールづくり

【住民による防犯の計画づくり】

- ・ 防犯のための「規則」づくりではなく、防犯への「自主的なルールづくり」が大切であり、そのためには住民自らが防犯のための計画づくりをすることが必要である。
- ・ 防犯の計画では、防犯や防災にかかわる行事に区民の参加率を上げる仕組みやルールをつくるのが重要になる。

【地域団体の自主的な防犯標語募集】

- ・ 地域の住民団体や地域組織が、区民と地域との触れあいの機会を増やすために、自主的な防犯標語の募集を行い、それを公表し、応募者への表彰活動を行う。

5. 暗い路地対策

【街歩き行事からの対策】

- ・ 区民が街歩きを実施して、その街歩きの活動の中から暗い路地の発見とその対応策を検討する。

<荒川グループ>

1. 地域と行政の両輪で進める防犯

【マンション自治会・管理組合への呼び掛け】

- ・ 地域が一丸となった取組でないと、防犯施策の効果が薄い。
- ・ 町会だけでなく、マンション自治会やマンション管理組合にも呼びかけを行う必要がある。

- ・ 町会の役員などを長く担っている人の中には、マンション住民を積極的に呼び込もうとしていない人が多いのではないか。
- ・ マンション管理組合も一つの自治会とみなすような、行政からの働き掛けが必要だ。
- ・ 最近、マンションの広告に町会費の金額が書いてあるものもあった。条例による「荒川ルール」は浸透し始めている。これから建つマンションには働き掛けができていくと思う。
- ・ 条例以前に建てられたマンションが地域コミュニティから抜けてしまっているのではないかと思う。
- ・ マンションによって取り組み方が異なる。子どもがいる世帯が多ければ、共有スペースがコミュニケーションの場になっている。

【町会の活性化とPTA】

- ・ 町会は地域の若い世代に門戸を開いていない。町会役員が高齢化しているのに代を譲ろうという気がない。
- ・ P T A活動に一生懸命取り組んでいる若い世代を町会に引っ張り出したら活性化した経験がある。一つの方法としていいのではないか。
- ・ P T Aは複数の町会にまたがった範囲で組織されるので、横の連携にも役立つ。
- ・ P T Aに対して教育委員会から働き掛けができないか。地域の連携のための重要性を認識してほしい。

【地域で顔をあわせる仕組み】

- ・ 近所同士で声を掛け合い、コミュニケーションができていれば、間接的に防犯になる。
- ・ “防犯訓練”など名目を付けて、無理矢理にでも近所同士が顔をあわせる仕組みをつくる必要がある。

2. 犯罪情報の広報・伝達

【きめ細かな情報提供】

- ・ 区から被害状況や手口について情報提供があるが、どんどん手口が新しくなって追いつかない。
- ・ 学校が「子どもがトラブルにあった等の理由での振り込め詐欺らしき電話があったら、学校に電話をして下さい。」と保護者に伝えたら、実際に詐欺の電話を受けた保護者が学校にいる自分の子どもの携帯電話に掛けてしまった。授業中は電源を切っているため、その保護者は気が動転して振り込んでしまった。この場合は、「職員室に電話を」と伝えておかないといけなかった。

【犯罪情報のリスト化など分かりやすい情報提供】

- ・ 振り込め詐欺やひったくりなど、犯罪情報を知っていれば注意ができる。情報提供は重要である。インターネットや携帯から犯罪情報をパッと見て分かるようにリスト化したらどうか。
- ・ 区からの情報提供は、盛りだくさんにせず、テーマを絞って単純明快にする。

【被害にあう前に気軽に相談できる場】

- ・ 一人で判断しないで済むように、気軽に相談できる場があるといいのではないか。

3. 学校と地域の協力関係の強化

【親と学校の関係】

- ・ 学校が保護者に対して「要望や意見を何でも聞かせて」と言うが、保護者それぞれの要望が全て通るはずはない。学校が教育方針を丁寧に説明しないと、保護者は「言っても無駄」と無関心になってしまう。学校と保護者が一緒に考える関係になっていない。

- ・ 「子どもを犯罪から守る」というテーマと一緒にあって取り組むべきである。

<区からの説明>

- ・ 地域、PTA、学校による連絡協議会を設置したり、通学路のパトロールを実施している。

【PTAから各保護者、地域への広がり課題】

- ・ 連絡協議会にPTAとして出席しても、その内容が各保護者に伝達されていない。形だけの会議になっている。

【非行防止のための教育の充実】

- ・ 中高生が迷惑行為をしていても、なかなか声をかけるのには勇気がいる。
- ・ PTAと学校が力を合わせて教育すべきである。

<区からの説明>

- ・ 地区公開講座という取組を年1回行っている。いじめや電車内で席を譲るなど、道徳に関する授業を行ったあと、地域からの参加者も交えて協議の時間を持っている。多いときは数十名程度参加された。保護者が中心だが、町会の方にも呼び掛けている。
- ・ 学校は区報による広報だけでなく、正門等に設けられた掲示板でのPR、町会、マンション管理組合などに呼び掛けているようだが、学校によってその方法は異なる。
- ・ また、規範意識が希薄になっている、という近年の課題を受けて、子どもを犯罪から守るだけでなく、犯罪者にしない教育に重点がおかれている。道徳を中心に様々な取組を増やしている。薬物使用の問題や携帯サイトによるいじめ問題等を扱っている。

【学校行事や公開授業のPR充実】

- ・ 日ごろから学校に行く機会が増えれば、子どもとのコミュニケーションも図れるのではないか。
- ・ 子どもを学校に通わせていないと情報は入ってこない。
- ・ 「運動会があるので騒音が出ます」という謝りのチラシが入っているが、それだけでなく、行事の際にも積極的に呼び掛けてほしい。

【小学生と中学生のタテのつながりづくり】

- ・ 中学生が卒業した小学校の面倒をみるような、地域でのタテのつながりづくりができないか。見本となっている意識が働けば自然と中学生の非行防止に役立つと思う。

<町屋グループ>

1. 子どもの見守り

【防災無線の活用】

- ・ 子どもの下校時間に「通学路を見守ってください」という放送を流すとよいのではないか。足立区で既に実施している。
- ・ 防災無線は意外と聞きづらい。災害時の放送と区別が付くようにすることが必要である。

【危険マップの作成】

- ・ 小学生の目から見た危険な場所マップを作成し、子どもの見守りやパトロール等に活用したらどうか。

【障がい児の見守り】

- ・ 障がい児の登下校には必ず保護者の同伴が必要とのことであるが、毎日親が同伴すると親が疲れてしまうので、サポート体制があるとよい。

【声掛けの推進】

- ・ 声掛けは顔見知りでない、逆に不審者に間違えられるため難しい。
- ・ 防災訓練時に「おせっかいおじさん・お婆さん」の声掛けをアピールしたらどうか。

2. 防犯への対応

【防犯パトロールの一本化】

- ・ 火の用心のパトロールや子どもパトロール等を一本化し、定期的にパトロールが行われるように組織化したらどうか。
- ・ 裏通りや路地を中心に回ることが望ましい。腕章をつけて回るとよい。

【防犯の取組み】

- ・ センサーライトを各家庭や人家の無いところにも設置したらどうか。人がいるとセンサーがつくので防犯上有効なのではないか。
- ・ 裏通りで人通りがある所に防犯灯や防犯運動ののぼり、各町会に配布された提灯などを設置し、防犯に取り組んでいることをPRする。
- ・ 商店街では防犯に関する掲示場所の提供や、商店会の放送施設の使用を許可することが出来ると思う。
- ・ 区外に対しても、街が防犯に取り組んでいることをPRし、区外から犯罪者が訪れない街にすることが大切である。

【TVによるリアルタイムな情報の提供】

- ・ 地域に密着した情報がTVで入手できると良い。コミュニケーションツールや活動が広がるきっかけになる。
- ・ ホームページは高齢者やパソコンを所有していない人が見られないので、全ての家庭で区内のあらゆる情報を入手できるとよい。

【警察とのコミュニケーション】

- ・ 交番のおまわりさんとのコミュニケーションを密にする必要があるのではないか。
- ・ 退職した警察官の方に、交番が空になる時間に詰めてもらうことはできないか。
- ・ 振り込め詐欺などの情報や対応策を、警察から町会に積極的に流してもらうことはできないか。また、自治会からも働き掛けることが大切である。

3. 新たな防犯拠点としてのコンビニの利用について

【コンビニの活用】

- ・ コンビニは皆が場所を知っており、夜でも行きやすいという点で意味や効果がある。
- ・ 商店街に夜間、明かりがあると犯罪が減るといった効果があった。
- ・ コンビニに駆け込んでくる人もいるが、コンビニにできることは犯罪者に直接対応することではなく、保護者や警察に連絡することぐらいである。
- ・ コンビニは表通りにあるため、裏通りの防犯上手薄なエリアにはない。
- ・ 表通りの防犯についてはコンビニも一定の効果があると思われるが、それ以外のエリアでは別の手段が必要ではないか。

<尾久グループ>

1. 街のつくりと防犯

【犯罪の少ない街荒川】

- ・ 23区の中でも犯罪が少なく、荒川区はまだそんなに犯罪が増えていない。
- ・ 尾久地域は繁華街も少なく、犯罪の温床となる地域も少ないと思う。
- ・ 荒川区は防犯の状況は現段階ではよい。これ以上悪くしないで現状を維持していくと

いう考え方が必要である。

【マンションと地域の連携づくり】

- ・ マンションなどが増え、地域とのつながりが持ちにくくなっている。
- ・ マンションの住棟の中ではコミュニケーションは生まれるが、マンション周辺の地域とは生まれにくいのが問題である。
- ・ 子ども会では、新しくマンションに入居した家庭の子どもが多い。
- ・ マンション居住の人も地域とのかかわりを求めている。
- ・ 地域の安全確保のため、管理会社と地域が話し合いを持つなど、マンション管理会社への働きかけを強めたらどうか。
- ・ マンション住民の方々に町会加入を条件とする条例ができた。罰則規定がないのが問題である。反応の良くないところは事業者名を公表するなどの罰則規定を設けるべきである。
- ・ 汐入地区ではマンション住民の方々に入居時期に町会加入を働き掛け、スムーズに行っている。汐入地区の方法を学ぶと良い。

＜区からの説明＞

- ・ 汐入では、マンションが建設される際、区の条例にしたがって、販売事業者が町会、自治会への加入を呼びか掛けている。その時、販売事業者の連絡員を必ず置くようにして、自治会加入を徹底している。
- ・ 入居者が町会、自治会に加入するように、事業者の連絡窓口を登録制にし、管理会社に替わっても事務引継をさせるなどの責任体制をつくることも必要である。

2. 子どもの見守り

【子どもを見守る体制の弱体化】

- ・ 人との付き合い方が個人的で、友人や仲間が居ない。そのため、孤立化していて子ども自らが安全を守れない。
- ・ 子どもの安全は親が守る、そのため親が行動を起こすことが基本である。
- ・ 学校の先生は忙しすぎて子どもの安全対策に動けない。雑務時間を減らすように教育委員会は考えて、先生の時間をつくるべきである。

【学校と地域の連携づくり】

- ・ 他地域でも学校選択制の見直しが言われている。地域と学校を結びつけるためにも再考が必要である。
- ・ 学校選択制は、学校の特徴を出すなど、意味があるだろう。全てを元に戻すというのは合意が得られない。
- ・ 学校選択の幅を少し狭くして、趣旨を生かしたらどうか。
- ・ 学校選択制は学校を中心にするのではなく、個人の家庭を中心にして、そこから何Kmの範囲で通学できる学校を選択する方法としたらどうか。
- ・ 学校選択制だけでなく、学校の統廃合についても周辺の工場跡地開発などを見通した先見性をもって対応した方が良い。

【防犯情報の共有】

- ・ 子どもの防犯情報は親が把握しているはずであり、その親が行動することが必要だ。
- ・ しかし、行動するとなっても、どのように、また、相談できる相手が地域でいなくなっている。
- ・ 地域の安全と人間的なつながりを深めるようなまちづくりが必要である。
- ・ 本音で話し合える場を地域でつくりたい。
- ・ ネットのみでなく、あらゆる機会を通して情報交換と連携を行う活動をつくる。

3. 効果的な防犯活動

【発揮できない防犯活動の効果】

- ・ 権限のない活動で、犯罪に対応しようとしても効果が薄いのではないか。
- ・ 警察は事件が起こってから対応するのではなく、予防に対してもっと積極的になって欲しい。

【警察による巡回の充実】

- ・ 警察官の各家庭への巡回は効果的である。その機会を増やせないか。
- ・ 警察官はおまわりさんと呼ばれていた。まちに出て、地域の皆の声を聞くことが必要である。

4. 交通安全

【本町通交差点の課題】

- ・ 道路管理者である都と区の連携を強化する。
- ・ 配送車両の荷捌きスペースを道路に確保する。

【自転車の専用レーン】

- ・ 現在工事中の高架下（舎人線）に自転車専用レーンを造る。

5. 次回の福祉の検討課題

【福祉活動への参加を】

- ・ 荒川区は福祉ボランティア活動が盛んである。
- ・ 高齢者でも参加できる場が沢山ある。
- ・ いろいろな福祉施設でイベントがあるので参加し、福祉活動に接し、知ることを積極的に行って欲しい。

6. その他

【一つでも実現できる政策の提案】

- ・ 懇談会を通して、言いつばなしでなく、一つでも実現できるものをつくろう。

<日暮里グループ>

1. 悪質な犯罪への対応

- ・ 悪質犯罪では、2～3人のグループで来られると太刀打ちできない。

2. 子どもの安全

【子どもパトロール】

- ・ 良い活動なので続けてほしい。しかし、町会の中には旗やポスターなどの引き取り手がなく、ある一部分にしか設置されないケースがある。

<区からの説明>

- ・ 総務企画課、生活安全課などの区の担当課と、警察、関係団体で協力して行っている活動である。のぼり旗などを地域に配布して立ててもらっているが、こういう防犯を呼び掛ける旗が立っているということが、その地域での防犯力の高さをアピールする効果もある。
- ・ しかし、こうした活動は新しいマンションなどに情報が伝わりにくいという課題もある。

【学校選択制の是非】

- ・ 学校選択制が問題ではないか。地域とのつながりがなくなり、見守りができない。
- ・ 学校選択制も個人レベルから見るとよいところもある。子どもの教育方針に合った校風の学校を選べることはよい。人口が少ない地域もありそのままでは学校が成り立たない場合もあるが、学校選択制になると区域外からの学生を呼び込むことができる。

【親子のイベントの充実】

- ・ 親子限定の銭湯無料デーというイベントがある。親子で裸の付き合いができる。子どもがいると、親同士も話をするきっかけができ、親子のつながりをもてる。いい機会になりそうだ。今後もこうしたイベントをやってほしい。

【防犯ブザーを使った防犯の訓練】

- ・ 今の小学生は区から配られた防犯ブザーを持っているらしいが、その防犯ブザーはきちんと動くのか。定期的にチェックをしているのか。
- ・ 防犯ブザーの音は、聞いたことがないと防犯ブザーだと分からない人もいる。それでは万が一の時に助けてあげることができない。防犯ブザーを聞く会などを行って、地域の人に防犯ブザーの音を知ってもらうべきではないか。
- ・ 防犯ブザーを持たせることは、時代の流れからすると仕方ないかもしれないが過干渉ではないか。

＜区からの説明＞

- ・ 防犯ブザーは、区内の小学生全員に配布されており、定期的に動くかどうかチェックしている。

3. 東日暮里1～3丁目

【まちの状況】

- ・ 都市計画制限が緩和され、地域にマンションや工場が林立し始めた。日照障害や電波障害、住工混在が進み、まちの環境が一変した。新しい人がたくさん入ってきて、今までの地域コミュニティが維持できなくなりつつある。そのため、地域防犯機能が低下し、今や日暮里地域の中で一番危険な地域といえるかもしれない。
- ・ パトロールなど治安を維持するための最低限の対策は行政でしっかりやってほしい。

4. 西日暮里地区

【コミュニティスペースが必要】

- ・ 昔は城下町でお屋敷があったところで、今でも敷地の大きい家が多い。環境としてはとてもいい地域である。
- ・ 一方で、線路に挟まれ、坂が多いなど地理的な条件が悪い。また、公共施設が少なく、隣接する文京区や北区の施設を使ったりする。公共施設をつくろうにも開成高校や西日暮里公園があり、有効活用できるエリアは限られている。開発しようにも場所がない。
- ・ 公民館のような施設がほしい。ひろば館でもつくってくれば、人が集まる場所ができ、地域とつながれるきっかけになるのではないか。今は、集まる場所自体がない。
- ・ まずは年中無休のフリーのコミュニティスペース（たまり場）をつくる。

5. 地域防犯における行政の役割

【地域特性に合わせた防犯対策】

- ・ 日暮里地域といっても地区ごとでまちの状況や防犯上抱えている問題も違う。そのため、防犯は地域よりもっと狭い地区単位で考える必要がある。
- ・ 行政は、防犯に対して基本的な支援を行うのは最低限の役割だが、地域特性に合わせて必要なサービスを提供できるような対応が必要である。相互のコミュニケーション

を図り、必要なものを伝え合うことが大事である。

- ・ 行政は地域の特性を考えて防犯を考えるべきである。特に開発などでまちの状況の変化が激しい地域に対しては、町会などがフォローしきれない部分を集中的に行政がフォローできるようにしてほしい。

6. 町会の体力強化

【組織の透明性の向上】

- ・ 町会に意見提案しても伝わらない。例えば、ペットボトル回収のお金（町会活動）の報告があったが詳細が分からなかった。透明性のある活動をしてほしい。資金が何に使われているのか分からない。

【人材確保による体力強化】

- ・ 町会はマンパワーが不足している。もっと元気のある人を入れていけばきっかけづくりになる。
- ・ 町会をもっとオープンにして誰でも気軽に出られるようにするだけでなく、町会もどんな人を求めているか分かるように発信することが大事である。
- ・ コミュニティが一部の人だけでなく、地域全体モノになるとよい。
- ・ 自分が町会に何ができるか一人一人が少しずつ地域活動に自主的になることが大事である。
- ・ 長寿会が補助金をもらって時々遊びに行くのはいいが、少しの時間でいいから外に出て子どもに声をかける活動をしてはどうか。8・3運動（子どもの登下校時の見守り活動）はお金もかからない。外に出て少しでも見守り活動をしてはどうか。

【必要な人に必要な支援ができる仕組み】

- ・ 町会に対する地域からの反応がない。地域の人は何を求めているか分からない。
- ・ 町会からの支援は、必要とする人に必要な支援をすることが大事である。

7. 地域活動や地域の人々をつなぐコーディネーター役

【地域や地域活動の理解】

- ・ 地域のよさは住んでいる人には分かりにくい。客観的に外から見た意見を聴くことも大切ではないか。
- ・ 地域活動や地域の人々とのつながりが少ない。
- ・ 民生委員など地域で活動している人のことを地域に伝えることが大事である。民生委員のことを知らない人も多い。

【地域活動コーディネーター役の導入】

- ・ 地域の活動についていろいろ知るとつながりや問題点が分かるようになる。町会で外部のコーディネーター役になる人を雇い、町会をはじめとした地域活動、地域の人々とのコーディネートをしてもらってはどうか。
- ・ 町会会館の管理人がコーディネーターになればよい。

【マンションの管理人の役割】

- ・ マンションでは管理人が大事であり、必ず管理人を置いて管理すべきである。投資用のマンションでは、ゴミの管理ができておらず、地域は迷惑する。行政主導で、管理人をおくことを条例化などしてはどうか。ゴミなど環境の問題は行政が地域とかかわりやすく、そこから地域を変えていけるきっかけになる。
- ・ マンションに常駐コーディネーター（事務局長、コンシェルジュ）を置く。定年後の暇している人たちを地域に取り込む。

以上